

「巳年に、ワクワクするお客さま」

今回は、バナナのことではありません。

本校の児童生徒用玄関の近くには、『愛の像』(本校を創立した西川吉之助さんと娘のはま子さんの像)があります。6月4日(水)の朝、登校時のことでした。子どもたちが、『愛の像』の近くに、白いヘビがいることを発見しました。本校の敷地や周辺には、餌となる生物がたくさん生息しています。

業務員さんが保護してくださり、理科室で袋に入れて一時保護することになりました。早速、各理科の授業で観察タイムとなりました。

「白いヘビだから、幸せになりそう」「うわ、怖い。でも袋越しにちょっと触ってみよう」「爬虫類には、他にはどんな仲間がいたかな?」「かわいい。目が丸くて赤くて、イクラみたい」「何を食べるのかな?」「オス?メス?」「総排泄腔…ということは糞も卵も1つの穴からされるのか」「ヘビって、音をきけるの?」「急に動いてびっくりした!袋から出てきそう」「また放課後も見に来て良いですか?」「お願い事をしておこう。… …」「(入れておいた)ウズラ卵が消えた!いつの間に食べたの?!」

まさに生きた教材!体長は1m超えです。幼稚部、小学部、中学部、高等部の子どもたちや本校職員が興味津々で理科室を訪れるようになりました。

6月5日(木)放課後、『滋賀県立琵琶湖博物館』の金尾滋史学芸員にお越しいただき、シロヘビをみていただきました。すぐに『びわこベース(大津市木戸)』の関慎太郎氏

と詳しく確認されたところ、【アオダイショウ】のアルビノと判明されました。ただ、非常に人懐こく(餌と間違えて噛んでくることはありましたが)、野生個体なのか、飼育個体なのか、判断することは難しいようです。

現在は、『びわこベース』さんに引き取っていただき、元気に過ごしているようです。

今年は『巳年』です。何とも珍しい、そしてみんながワクワクする訪問者でした。記事をご覧ください。みなさまにも、素敵な幸せが訪れますように☆



『愛の像』

